

ナシ晩生種「王秋」及び「甘太」の黒星病に対する 梅雨期以降の果実感受性

福島県農業総合センター 果樹研究所 病害虫科

1 部門名

果樹－ナシ－病害虫防除

2 担当者名

藤田剛輝、七海隆之

3 要旨

「王秋」及び「甘太」は食味良好な晩生種であり、浜通り地域の産地再生等において有望であるが、ナシ黒星病の発生が懸念される。そのため、両品種の黒星病に対する梅雨期以降の果実感受性を調査した結果、「幸水」と同様に感受性が高い時期が認められることが明らかとなった。

(1) 時期別接種試験は、2020年6月12日から8月12日まで約10日間隔で実施した(図1)。

「幸水」の発病果率は、7月22日(満開後79日)までの接種区で高かった。

(2) 「王秋」の発病果率は、7月10日(満開後82日)までの接種区で高く、感受性の高い時期が「幸水」より12日程度短かった。

(3) 「甘太」の発病果率は、7月31日(満開後102日)までの接種区で高く、感受性の高い時期が「幸水」より9日程度長かったため、注意が必要である。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成30年度～令和2年度

(2) 研究課題名 浜通り地域におけるナシとブドウの早期成園化技術導入に関する実証研究

〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕

5 主な参考文献・資料

(1) 梅本清作, ニホンナシ黒星病の発生生態と防除に関する研究, 千葉県農業試験場特別報告, 22, p. 44, 1993.

(2) 果樹の早期復旧コンソーシアム, 栽培中断園地における果樹の早期復旧に向けた実証研究成果集, 2021.

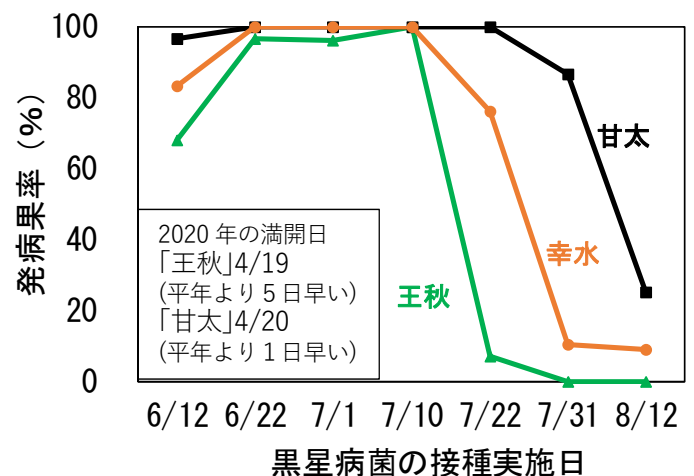


図1 各品種の黒星病に対する果実感受性
(調査日:幸水 8/31、王秋及び甘太 9/17)